

目標達成計画

作成日 : 平成24年6月15日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。

目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	1	開設時からの理念に変更はないが、利用者入れ替わりや、高齢化、認知症の重度化など、状況の変化により理念に対する職員の考え方に多少のずれが生じているところがある。	理念の言葉の意味を職員全員で理解し、考え方を統一する。	全職員が集まれる機会に、理念について話し合うようにする。一つ一つの理念の中身を具体的に考え、実践していくようにする。現在のグループホームの状況に、どう理念を反映させることができるかを考える。	6ヶ月
2	35	災害対策について、火災については年2回通報訓練と避難訓練を行っているが、様々な災害対策についても対策を講じていく必要がある。また地域との協力体制を考える必要がある。	災害時の危険個所の発見・整備 備蓄品の整備 様々な災害時の体制作り 地域の方々との災害対策の話し合い。	全職員で分担して、施設、居室内の危険個所の発見・修正・整備をしていく。備蓄品の確保。様々な災害に対するマニュアル作り、連絡体制、避難訓練を行う。運営推進会議で地域の方々との連携体制について話し合う機会を設ける。	12ヶ月
3	10	家族の面会時、家族会などでは出来るだけ家族からの意見や要望を聞き出せるように、積極的に職員から話しかけるようにし記録に残している。いただいた意見を分析し、サービスの質の向上を目指していく。	利用者や家族の意見の把握・分析	利用者や家族からの意見や要望を記録に残し、定期的にその言葉の内容を分析してみる。内容を表面化し、開示することで、サービスの質の向上を目指す。利用者・家族がたくさん意見を出せるような雰囲気作り、意見箱の設置を考える。	12ヶ月
4	6	身体拘束をしないケアについては繰り返し研修を行い、自施設内で拘束になるケアがなされていないか、また拘束になり得る可能性のあるケアがされていないか検討している。利用者の状況に合わせたケアについて、家族と話し合っているか見直す必要がある。	一人ひとりのケアについて拘束となり得るものがないか考える。また必要姓があることについては、書面で同意を得るようにする。	利用者一人一人の生活環境、ケアを考えなおし、拘束と考えられることについても利用者の日常生活にとって必要性があるものは、その内容を明らかにし利用者家族に書面で同意をとる。	12ヶ月
5	7	虐待防止については繰り返し研修を行い、理解を深めている。自分たちのケアの中で不適切なケアがなされていないか事例検討なども行っている。これからも適時自分たちのケアを振り返り、虐待防止に努めていく必要がある。	研修・ミーティングでの理解・知識の向上。 虐待、不適切ケアに値するケアの防止に努める。	研修・ミーティングで繰り返し虐待についての理解を深める。普段の自分たちのケアを振り返り、具体的な場面での事例を考えながら不適切ケアがなされていないかを考え、改善・予防に努める。	12ヶ月
6	36	利用者一人一人の尊重とプライバシーの確保については、繰り返し研修を行い普段のサービス内容について自分たちの言動を振り返るようにしている。今後も職員全員で啓発し合い、見直す機会を作っていく必要がある。	利用者一人一人の人権を尊重し、プライバシーの確保に努め、研修を重ねて知識とケアの質の向上を目指す。	継続して研修を行い、日常的にサービスが行われる中でプライバシーについて自分たちがどう考えながらケアしていかなくてはならないのかを職員全員が集まれる場で、定期的に話し合うようにする。	6ヶ月

注)項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。